

主 論 文 要 旨

報告番号	甲 乙 第	号	氏 名	高雄 慎二
主 論 文 題 目： 電子掲示板における知識共有と議論の 活発化支援機能に関する研究				
(内容の要旨)				
<p>本論文は、電子掲示板を用いて知識共有や議論を行う場合に発生する、意見交換の不活発さや議論の不徹底さの問題を、投票に似た機能を用いて解消することを提案し、特に小～中規模の参加者がお互いが認識できる集団が用いる際に提案が有効であることを実験的に示したものである。</p> <p>電子掲示板は、参加者が入力したテキストをサーバに蓄積し、他参加者は各自の都合のよい時に閲覧し応答を入力できるようにしたコミュニケーション手段である。Web 技術に基づくコンテンツ管理システム(CMS)の発達により、その設置が容易にできるようになり、中小規模の集団で、知識共有や議論を目的として盛んに用いられるようになった。しかし、中小規模集団では、活発に発言(書込み)を行うユーザの数が少なく、有用な情報の提供が不足し、知識共有が活発化しないという問題点がある。また、電子掲示板上で議論を行うと、結論がまとまりにくく、検討が多面的にならないという問題点がある。</p> <p>本研究では、上記の問題は、発言しない読み手の反応を発言者が知りえないという電子掲示板の特徴に起因し、それを解決するためには発言しない読み手にとって心理的な壁の低い情報発信手段が有効であろうと考えた。その手段の候補として投票機能に着目し、それをいつでもあらゆる発言(書込み)に対して行うことができるように拡張した複数の方式を提案し、それらが一定条件下で有効であることを実証的に明らかにすることを目指した。本研究で得た主な知見は3つである。第一は、中小規模集団で質問と回答のやり取りにより知識の共有を目指す実験では、読み手が記名して投票を行うと、集団の目的に関係した書込みのやり取り、すなわち知識共有行為が活発になったということである。第二は、中小規模集団で集団内の認識の相違の解消を目指して議論を行う実験では、発言者(書き手)の主張点をタグによって明示し、それに対し投票を行うと、異なる主張を持つもの同士の議論が活発になったり、積極的に合意を目指す建設的な(良好な)行動が多く行われるようになったということである。第三は、知識共有を目指す実験で読み手が記名しない投票を行う場合と、また、議論を行う実験で主張点を明示するタグを用いない発言に対して投票を行う場合では、それぞれの改善効果は小さく、あるいは、逆に否定的影響が現れた点である。</p> <p>本論文の構成は次の通りである。第1章では、背景と目的を述べている。第2章では、電子掲示板の問題を分析し、投票機能が有効と考える理由を説明している。第3章では、電子掲示板のコミュニケーションを補完するための新たな投票方法を提案している。投票者名を表示するかどうか、主張点をタグで明示するかどうかの組合せに基づく3つの投票方法である。第4章は、問題を解決する既存の代替案や先行研究を説明し、本提案手法と比較している。第5章は、中小規模集団で質問と回答のやり取りにより知識共有を図る場合に、投票者名を明示する投票と明示しない投票の効果を調べた実験について述べている。第6章は、中小規模集団で議論を行う場合に、投票者名を明示する投票と明示しない投票、および書込みの主張点を明示するタグを用いた上で行う投票の三つを用いた実験について述べている。第7章は、実験結果を分析し、提案手法の適否を論じている。第8章は、本論文をまとめ今後の研究方向を展望している。</p>				